

クリスマス会

たんぽぽルームそがでは十二月十八日から二十五日までクリスマスの活動を行いました。

衣装、小道具を身に着けたり、プレゼント交換を行ったりしました。衣装は利用者が好きなものを取り出して自由に着てもらいました。

たんぽぽルームそが 川下 美香子



お正月

年が明けて各事業所では書初めが行われました。今年の干支の「辰」や好きな言葉・名前等を利用者様、職員共に書き上げました。

また、おそらではお雑煮の調理を行ったり、たんぽぽルームそがではカルタや凧揚げ等、正月らしい玩具で遊んだりと事業所毎に様々な活動を行いました。

たんぽぽルームそが 島津 晃



編集後記

新成人を迎えられた皆様、おめでとうございます。二十歳を祝う会並びに新年会では日頃とは違う場所・食事・催しが行われ利用者様も普段とは違う様子が見られました。また、各事業所での旅行も再開され少しずつコロナ禍前の生活に戻りつつあるのかなと感じております。しかし、インフルエンザの流行が続いておりますので引き続き感染症対策に留意して日々の生活を過ごしていければと思っております。本年もみらい通信を通じて利用者様の様々な姿をご紹介します。

広報委員一同



みらい通信

第二十九号 令和六年三月発行

発行元 社会福祉法人みらい工房広報委員会

発行責任者 平井晋也

住所 千葉市中央区生実町一八二番地一

電話番号 〇四三（四八八）四六四九

新年、明けましておめでとうございます。昨年は新型コロナウイルスが二類から五類に引き下がり、ようやく自粛生活から通常の生活に戻りつつある年だったと思います。

みらい工房でも、一泊旅行や外出行事等、利用者様の楽しみが自粛されておりましたが昨年からはようやく実施する事ができました。一泊旅行では各生活介護事業所で実施し、皆様、久しぶりの旅行を満喫されており、笑顔も多く見られた事とてもうれしく思いました。

職員も同様、自粛生活から徐々に元の生活に戻りつつあり、福利厚生も再開してきております。職員交流で東京デイズニールランドへ出掛けたり、野球部も本格的に活動を再開しました。千葉県知的障害者福祉協会が主催する大会にも参加。結果は検討しましたが力及ばず一勝もできませんでした。職員交流も戻りつつあり、職員も活気を取り戻してきており、益々仕事にもやる気が出てきているように思っております。

ですが、新型コロナウイルスもまだ流行した事、世の中ではインフルエンザも大流行した事等を踏まえると、まだまだ感染症は予断を許さない状況が続くと思いき、利用者様が安心して通所できる環境にしていきたいと思っています。グループホームのご利用者様には安心して生活できるようにしていきたいと思ひます。

グループホームでは南生実町ホーム、生実町Aホームで一部屋ずつではありますが、昨年の七月から短期入所事業を開始しました。短期入所事業を再開した事を、大変心待ちにされていたというお言葉を頂いた時は、大変申し訳なく思いました。

今後、より多くの方に利用して頂ければと思っております。

南生実町ホームも外壁の老朽化に伴い、昨年度は元々の色であった白をベースにしておりますが、それに加えワンポイントにオレンジ、屋根を緑にする等、お洒落な雰囲気となりました。訪問や見学に来て頂く際は、ぜひ目印にして下さい。

みらい工房は社会福祉法人になって丸五年を迎えます。これもひとえにご利用者様、そのご家族様、並びに関係各所皆様方のご協力あつてのものだと感謝しております。

皆様にはご不便、ご迷惑をお掛けする事もあるかと思ひます。その際は、ご指導、ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。

グループホーム施設長・部長

渡邊 慎太郎

だいち

みらい工房

一泊旅行

おおぞら

つむぎ

「よし、晴れた。」九月二十七日からの一泊旅行は、おもわずガッツポーズをしたくなるようないい天気で実施されました。コロナ禍により三年ぶりの実施であることと私自身が初参加である為、準備段階から不安な気持ちでいっぱいでした。しかし不安な気持ちを蹴散らすような天候にきつこの旅行は素敵な旅行になると思うことができました。また実施が正式に決定した際に事業所内で案内を行うと利用者様や保護者様から期待されるお声がけをたくさんいただきました。皆様がいかに楽しませていた行事かと実感します。思い出深い旅行にしなければと力が入りました。

この旅行の中で特に印象深かったのが、利用者様自身が他利用者様をいつも以上に気遣っていた姿でした。また、いつも昼食を残される方が毎食きれいに完食されたり、こちらの心配をよそにしっかりと集団行動に参加される方がいたり。と普段見るこのできない顔をたくさん見ることができました。そして利用者様ご自身が自ら楽しもうとする姿勢でのごまれており、とても良い雰囲気で行うことができました。

旅行が終わった際に、利用者様から「また行きたい。」「来年はどこへ行くの？」と尋ねられることが多々ありました。来年度は県外での実施を予定していることを伝えるとさらに嬉しそうな表情が見られました。来年度の一泊旅行もたくさん笑顔に出会えることを楽しみにこれからの日々を過ごしていきたいと思ひます。

みらい工房 安念 蔵人

みらい工房



つむぎ



二十歳を祝う会・新年会

令和六年二十歳を祝う会・新年会 保護者代表様 謝辞 全文掲載

僭越ではありますが、四名の保護者を代表しまして、お礼の言葉を述べさせていただきます。

初めに、年明け早々、元日に起きた石川県の大地震で、ご家族やご親戚、ご友人が被災された方もいらっしゃると思います。皆様には心よりお見舞い申し上げます。

また、このような状況の中、本日は、二十歳を迎えた四名のために、盛大な門出の場を設けていただき、厚く御礼申し上げます。

早いもので、もう二十年の月日が流れ、二十年前に産声をあげて生まれてきたことを、とても懐かしく思い出します。

四名それぞれ、生まれ育った場所で、色々な思いで過ごしてきたと思います。親としては、こんなことができるようになったと成長を感じる喜びや、時に、心無い言葉に胸を痛めることも多々ありました。それでも強く生きていかなければ、子供をなんとか一人前に育てなければ、という思いで、ここまでやってまいりました。

高校生になり、学生生活最後の三年間は、新型コロナウイルスの拡大で色々なことが制限される日々でした。数か月、自宅待機で学校へ通えない時もありました。楽しみにしていた行事もたくさん中止になりました。そのような状況で、卒業後の就労に向け、不安はたくさんありましたが、先生方に支えられ、ご指導をいただき、ゆつくり少しずつではありますが、社会に出ていくための準備をしてまいりました。

二年前に支援学校高等学校を卒業し、ご縁があり、みらい工房さんで共に働き、たくさんの方に支えられ、今日の日を迎えることができました。

子供が社会にでて働く姿を見ると、できることはまだまだかもしれませんが、また一つ成長できたことが、とてもうれしく思っております。これも、みらい工房の皆様の温かい愛情とお力添えがあつてこそと、ひとえに感謝しております。

まだまだ未熟ではありますが、どうかこれからも温かい目でご指導・ご鞭撻をいただきますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、皆様の益々のご健勝とご多幸をお祈りし、お礼の言葉とさせていただきます。

令和六年一月十三日 保護者代表 齋藤典子

おおぞら



だいち



新成人、おめでとうございます

